

中学校 1 年

鉛筆デッサンに挑戦しよう

東大阪市立布施中学校

教科

美術

単元名

見つめると見えてくるもの

本時のねらい

- ・鉛筆デッサンについての知識を身につけ、自らの作品に生かすことができる。
- ・制作計画を立てることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・絵や写真などをデッサンするという課題に対して、1 人 1 台端末を活用し、デッサンする。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・電子黒板
- ・ロイロノート・スクール

本時で育む主な情報活用能力

B - STEP 4, C - STEP 4
D - STEP 4, L - STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	本時の学習課題：鉛筆デッサンについての知識を身につけ、自らの作品に生かすことができる。 ○選んだ球体を H、2 B の鉛筆を使ってデッサンしていく際に、工夫することや描き方などを確認する。 【写真 1】	・前時に iPad を用いて、立体の中でも球体のものをウェブブラウザで調べておく。どんな描き方が球体に見えるかを考え、画像を選択し、どのように描くかをレポートにまとめ、ロイロノートの提出箱で共有する。
展開 (40 分)	○iPad を用いて画像の選択をし、鉛筆デッサンを行う。 ○どういった描き方があるのか、クラスメイトの作品や調べた参考資料をもとに各自が創意工夫した点を交流する。 【写真 2】【写真 3】	・レポートを共有することで、同じような課題設定を行っているクラスメイトや、描き方の参考になるクラスメイトを探し、直接工夫等を聞くことができる。
まとめ (5 分)	○単元におけるゴールまでの課題と設定時間を再確認して、自身の進捗状況を振り返る。	・電子黒板に単元におけるゴールまでの流れ、学びの進め方、課題設定時間を提示し、各自が進捗状況を振り返れるようにする。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】生徒一人ひとりがレポートを共有している様子



【写真 2】端末に映し出されている写真をもとに鉛筆デッサンに取り組む様子



【写真 3】互いの創意工夫したレポートをクラウドで確認しながら交流している様子

児童生徒の反応や変容

- ・1 人 1 台端末を活用し、単元におけるゴールや学習の流れを共有しているため、次に何をするか、成果物をどう改善するかを授業時間外でも試行錯誤している姿が見られた。生徒たちからは、「美術が楽しく、早く次を進めたい」という声も上がっている。
- ・1 人 1 台端末でレポートを友だちと共有することで、他者のデッサンを参照しながら、自分からクラスメイトに描き方の工夫を聞きに行く生徒が増えた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・立体に見えるようデッサンすることは課題として難しいが、iPad を使うことで事前に成果物のイメージもできるため、ほとんどの生徒が描き進めることができた。1 人 1 台端末を活用し、描きたい球体を探したり、クラスメイトの描き方を参考にしたりしながら進めることができた。